















とらふんこいし〜二月二十日ついでち月朔日一後夜ごご〜

ふりふりふりふりふり〜あしやき柳やなぎなどあり〜あつこ雲くものち〜

えん申まを二三人〜あしやき柳やなぎなどあり〜あつこ雲くものち〜

きききき〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜あつこ雲くものち〜

















故より清たまあり有るの十日<sup>きん</sup>神代<sup>かみしろ</sup>儀事<sup>ぎじ</sup>せし務所  
 ひしと九月十日正の神代儀事せし務所<sup>えんたし</sup>  
 故より清たまあり有るの十日<sup>きん</sup>神代<sup>かみしろ</sup>儀事<sup>ぎじ</sup>せし務所  
 ひしと九月十日正の神代儀事せし務所<sup>えんたし</sup>

故より  
 一ノウ

故より













































ふらふらとくがうそんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ

こころういふおぼゆるお

女まににんしんぐらよ







Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and continuous across the page, with some variations in line thickness and spacing. The text is arranged in a single column, running from top to bottom. The characters are highly stylized and interconnected, characteristic of a cursive hand. There are some faint markings and a small red mark at the top of the page, possibly a page number or a decorative element. The overall appearance is that of an old, well-preserved manuscript.







とて中將海軍に任じ給はり候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

御座り候間御座り候間御座り候間

其の如く云ふに、先づ、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、  
二十一、  
二十二、  
二十三、  
二十四、  
二十五、  
二十六、  
二十七、  
二十八、  
二十九、  
三十、  
三十一、  
三十二、  
三十三、  
三十四、  
三十五、  
三十六、  
三十七、  
三十八、  
三十九、  
四十、  
四十一、  
四十二、  
四十三、  
四十四、  
四十五、  
四十六、  
四十七、  
四十八、  
四十九、  
五十、  
五十一、  
五十二、  
五十三、  
五十四、  
五十五、  
五十六、  
五十七、  
五十八、  
五十九、  
六十、  
六十一、  
六十二、  
六十三、  
六十四、  
六十五、  
六十六、  
六十七、  
六十八、  
六十九、  
七十、  
七十一、  
七十二、  
七十三、  
七十四、  
七十五、  
七十六、  
七十七、  
七十八、  
七十九、  
八十、  
八十一、  
八十二、  
八十三、  
八十四、  
八十五、  
八十六、  
八十七、  
八十八、  
八十九、  
九十、  
九十一、  
九十二、  
九十三、  
九十四、  
九十五、  
九十六、  
九十七、  
九十八、  
九十九、  
百、  
百一、  
百二、  
百三、  
百四、  
百五、  
百六、  
百七、  
百八、  
百九、  
百十、  
百十一、  
百十二、  
百十三、  
百十四、  
百十五、  
百十六、  
百十七、  
百十八、  
百十九、  
百二十、  
百二十一、  
百二十二、  
百二十三、  
百二十四、  
百二十五、  
百二十六、  
百二十七、  
百二十八、  
百二十九、  
百三十、  
百三十一、  
百三十二、  
百三十三、  
百三十四、  
百三十五、  
百三十六、  
百三十七、  
百三十八、  
百三十九、  
百四十、  
百四十一、  
百四十二、  
百四十三、  
百四十四、  
百四十五、  
百四十六、  
百四十七、  
百四十八、  
百四十九、  
百五十、  
百五十一、  
百五十二、  
百五十三、  
百五十四、  
百五十五、  
百五十六、  
百五十七、  
百五十八、  
百五十九、  
百六十、  
百六十一、  
百六十二、  
百六十三、  
百六十四、  
百六十五、  
百六十六、  
百六十七、  
百六十八、  
百六十九、  
百七十、  
百七十一、  
百七十二、  
百七十三、  
百七十四、  
百七十五、  
百七十六、  
百七十七、  
百七十八、  
百七十九、  
百八十、  
百八十一、  
百八十二、  
百八十三、  
百八十四、  
百八十五、  
百八十六、  
百八十七、  
百八十八、  
百八十九、  
百九十、  
百九十一、  
百九十二、  
百九十三、  
百九十四、  
百九十五、  
百九十六、  
百九十七、  
百九十八、  
百九十九、  
百、







宮へはちりたまはむ。ちもつぬらんからんぞくめ申。  
くくたれはしるたれし。いみちらふくひくひ。なつてつ。  
月の一日は。

と張てらつて

あくぞく 舟のみら 男女乃中

井ま

ひらひらの井 ちり井をね板がらつたう ちの井  
けーもあつたぬぬーなるりほーちすんあをの井  
もひらひらーいづあきろーそあーあおのりあーさ  
ちやう井 揚井 茨けらまらけぬ子共の井

史記ま

紀伊守 和泉

やとめはらこのあんれうふ

下野 甲斐 越後 筑後 阿波

犬まら

式部犬ま 丸末の犬ま 史犬ま 六位若人 思ひく  
よもあゝぬがううえくちあめたゆ 持ちま  
のいあまみあまいあまいあまいあまいあまい  
まらー車やとろろ車めあまらるあまらる  
しはちちあまらるあまらるあまらるあまらる  
あまらるあまらるあまらるあまらるあまらる  
あまらるあまらるあまらるあまらるあまらる





Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, spanning two pages. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear, including some staining and discoloration. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a section of a manuscript. The lines are roughly parallel, following the curve of the page. The overall appearance is that of a well-used, historical document.



るもたまににきよのほひなりかたむかひひらふ  
かみづひしきと一し作しけり。まゝ一し人なす一し  
はくまよす人さくはくまよすまゝまゝあり  
まゝす。すまゝのけり。たたらまゝまゝまゝの煙はら  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

あつははまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 18 lines of text, arranged in a single column. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect. The text appears to be a continuous narrative or record, possibly related to a specific event or location, as suggested by the word '大納言' (Dainagon) visible in the lower portion of the page.

















きん。ほら。み。き。の。ま。た。な。ら。な。

淡々

ここのこま かきか 吹上げ 淡々なる海うらみは

せれん お 子 お 羅乃 お なる お 一 お ひろ お 一 お 思 お け お け お け

浦

おのろろ お なる お まの お 浦 お なる お の お 浦 お なる お なる

ら お 次 お の お 浦 お なる お なる

寺

は お なる お なる お なる お なる お なる お なる お なる お なる

市 お なる お なる お なる お なる お なる お なる お なる お なる



